

広報おおぶ (2018.9.1 No.1150) マンガ広報 第12話 (文芸部)

まんが甲子園 本選に 3年連続3回目の出場!

全国の高校生を対象としたまんがの大会、まんが甲子園。出題されたテーマに沿ったまんがを、チームで1枚の紙に描きます。今回の予選では海外も含めて301校の応募があり、その内の33校が本選に出場しました。



▲4人で仕上げる作品

本選には「今年こそは優勝」と意気込んで臨みましたが、惜しくも決勝には進めませんでした。

部員のみなさんは「大会の楽しさが分かった。来年こそ栄冠を勝ち取る」と話します。



▲完成した作品と記念撮影



マンガ広報が今年で1周年を迎えました。今回は、マンガ広報が始まったエピソードや作者である大府東高校文芸部の皆さんの制作現場を紹介しました。
マンガ広報が始まったきっかけ
広報のおおぶの課題として若者の愛読率の低さがあり、当時まんが甲子園に2年連続出場していた大府東高校文芸部に相談し、マンガを通して、若い人にも興味を持って読んでもらえるようにしようとの考えから、コラボ企画が立ち上がりました。
文芸部はどんな活動をしているの?
全国高等学校漫画選手権大会(まんが甲子園)への応募作品の制作、広報おおぶ(マンガ広報)の連載、文化祭の企画、イラストコンテストへの応募などのほか、個人作品の制作や、部誌の作成などを行っています。

マンガ広報ができるまで

STEP 1 取材・イメージ組み立て

①取材先を決める
市の行事や取り組をもとに、広報広聴課と相談しながら取材先を決めます。内容にゆだね、イベントへの参加や、話を聞きに行きます。

②作品のイメージを決める
イベント参加や取材を通して、ストーリー構成を考えます。取材では事前に質問することを考えて確認しています。

STEP 2 制作

①文担当
まず登場人物を決めて、文を書き入れます。マンガのようにするためにセリフを多くしているの、文として成り立つかどうか気をつけながら書いています。

②絵担当
マンガを書く際、構成に合う絵を面用紙に下書きします。そして、その絵をスマートフォンで撮影し、イラスト作成用のアプリを使って写真を下絵にマンガを描きます。

STEP 3 納品

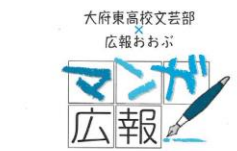
まず登場人物を構成に合う絵を面用紙に下書きします。そして、その絵をスマートフォンで撮影し、イラスト作成用のアプリを使って写真を下絵にマンガを描きます。

課へ送信、広報広聴におおぶに掲載!

これからも多くの場で活躍できるように、部員一同頑張ります!

南谷部長

▲早川ふどう園で取材



第12話 大府駅で発見!!

9月になってもまだ厳しい残暑が続いている。おれは旧暦の大会の打ち合わせで名古屋に行かなきゃならない。大府駅まで、あれあいバスで行くか、ちょっと良い時間にバスが来るみたいだし、何より安い! 高校生にはやさしい。バスに乗り込むとあいつと目が合った。えっ!?

「あれ? 桃花?」
「えっ? 先輩? どうしてこれ?」

「なごらに?」
「これは大府駅に行こう!」
「えっ? 私も行く? こんな偶然? 運命じゃないですか?」
「...。お前バスの中なのに声でかいんだよ!」
「あ、ごめんさ!」
バスに揺られて5分。大府駅に着くとさやかな音が聞こえてきた。
「先輩! あそこで野菜とかお菓子を売ってますよ! ほら、」

これが「大府駅前マルシェ」ですよ。見てくださいよ! レトロな雰囲気が好きです。大府の土産品を売ってますよ。ぶどうのお菓子、巨峰ジャやや巨峰バター、タマネギのお漬物! あっ、今年、納豆のコンクールで日本一に選ばれた「丸丸食品」の国産中粒納豆もあつたね、スーパーだと売って切れちゃうくらいだよ!」
「これにちなみ!」
「あら、こんにちは。ちょっと待ってね!」
さやかなとヒロのお姉さん。桃花は何やら楽しそうに話しながらサクサクと手を動かしている。しばらくすると桃花がバルーンアートのトロキを出してきた。
「はい、これは先輩の分です! 私とおそろいでですよ。大事にしてくださいわね!」
「あ、ありがとう。でも、今聞かせてる?」
「何言ってるんですか、先輩。せっかく作っていただいたのに。大事にしましょうね! ほら、ここには地元のお土産も売られてるんですよ。生産農家の方が直売してますからね。あと福祉施設の出品もある!」
「電車に乗るまでの時間か!」
物しちゃうな!」
「先輩、あつちの「KURETTO おおぶ」にも行ってみたいです!」

「ここはカフェと売店が一緒にあってるんですよ。大府の土産品を売ってますよ。ぶどうのお菓子、巨峰ジャやや巨峰バター、タマネギのお漬物! あっ、今年、納豆のコンクールで日本一に選ばれた「丸丸食品」の国産中粒納豆もあつたね、スーパーだと売って切れちゃうくらいだよ!」
「これにちなみ!」
「あら、こんにちは。ちょっと待ってね!」
さやかなとヒロのお姉さん。桃花は何やら楽しそうに話しながらサクサクと手を動かしている。しばらくすると桃花がバルーンアートのトロキを出してきた。
「はい、これは先輩の分です! 私とおそろいでですよ。大事にしてくださいわね!」
「あ、ありがとう。でも、今聞かせてる?」
「何言ってるんですか、先輩。せっかく作っていただいたのに。大事にしましょうね! ほら、ここには地元のお土産も売られてるんですよ。生産農家の方が直売してますからね。あと福祉施設の出品もある!」
「電車に乗るまでの時間か!」
物しちゃうな!」
「先輩、あつちの「KURETTO おおぶ」にも行ってみたいです!」

文：大府東高校一年 金田千鶴
絵：同年 加藤彩瑠